

機能計画1

センターの施設機能提案	
<b>来訪者の受け入れ</b>	
<b>サービス機能</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光客を受け入れるための基本機能の整備</li> <li>東紀州地域に関する体験工房 (農林水文化の紹介、体験)</li> <li>休憩・やすらぎ・楽しさ・交流等サービス</li> <li>軽食やある程度の物品購入ができる</li> </ul>
<b>情報提供</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>古道情報サービス(東紀州地域の総合案内)</li> <li>東紀州地域の物産・食文化・観光・宿泊等の紹介</li> </ul>
<b>情報発信</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>古道地域センターとの様々な管理、保全、情報ネットワーク</li> <li>古道(伊勢路)への集客企画P.R</li> <li>世界遺産としての紹介、P.R(三県・世界)</li> </ul>
<b>交流</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれる、つくる、参加といった体験型センター</li> <li>東紀州地域の住民等との様々な交流</li> <li>施設の周辺を利用した交流 (多目的広場、休憩、遊び場、W.C、伝統家屋の移築等)</li> </ul>
<b>学術研究</b>	
<b>研究機関</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界遺産の保全と活用の学術機関</li> <li>熊野学(自然系、歴史系)の事務局の設置</li> </ul>
<b>展示</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマは「道」「旅」「自然」「信仰」等</li> <li>参加型で作っていく</li> <li>熊野古道をよりよく知ってもらうための示唆を与える施設</li> <li>現地では判りにくいものを補完する機能(歴史・全体の俯瞰・考え方など)</li> <li>地域の産業や地域の暮らしも紹介</li> <li>映像施設</li> <li>体験型スペースと観察型スペース</li> </ul>
<b>講座</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講座開設/資料提供</li> </ul>
<b>收藏品</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典、文学、日記、俳句等の古文書や熊野に関する書籍を広く収蔵</li> </ul>
<b>熊野古道にかかわる市民活動</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>古道に関する市民活動拠点 (語り部、古道管理等の団体の活動の場)</li> <li>地域の人々の展示会や企画展等の開催</li> <li>各機能による運営体制づくり</li> </ul>
<b>構造上の配慮点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>センターの管理・事務・運営(本部)</li> <li>各機能スペースがフレキシブルに対応</li> <li>全ての人に使いやすいユニバーサル空間</li> </ul>

センターの3つの機能	
<b>情報発信機能</b>	<p>全ての来訪者・利用者をあたたかく迎え、安らぎ・知り・交流でき、古道や東紀州地域を紹介する総合窓口、管理、運営の本部機能を設定する。</p>
<b>研究・保存機能</b>	<p>世界遺産としての周知、古道の研究・学習・研修・展示を行い、古道全域の保全と活用を行う機能を設定する。</p>
<b>交流機能</b>	<p>古道に関する様々な活動団体の研修・会議・交流等の場としての機能、東紀州地域の生活文化等を体験できる機能を設定する。</p>

各機能の数値は参考数値であり、実施計画により変更する可能性があります。

情報発信機能 800㎡前後

用途	具体的内容	摘要
ロビースペース	ビジター(来訪者)が休憩、くつろげる場とし、交流、サービス機能をもたせる	
映像ホール	古道の歴史や四季の移りかわり等を紹介	100人程度 プロジェクタを使用
大会議スペース	研修、学習、講義、会議等に利用。また修学旅行等各団体にも対応する	最大100人程度
販売・飲食スペース	休憩・軽食・ドリンク等のサービスコーナー。また地域物産・古道グッズ等の紹介、販売コーナー	飲食 20名程度 販売は20~30㎡
古道情報サービススペース	コンピューターや写真パネル等古道やその地域に関する様々な情報を案内する	
管理事務所スペース	総合窓口案内・センター管理・防災・救護・宿直等	100~120㎡
共有スペース	通路・風除室・エントランス・倉庫・便所等	

研究・保存機能 1,200㎡前後

用途	具体的内容	摘要
展示スペース(収蔵庫を含む)	古道関係・世界遺産関係・熊野学・地域産業・東紀州地域のくらし	800~1,000㎡
図書スペース	書庫及び閲覧に利用	
多目的スペース	情報処理、各種作業、会議、研修等に利用	
共有スペース	入口・通路・倉庫・便所等	

交流機能 400㎡前後

用途	具体的内容	摘要
市民活動・体験工房スペース	市民団体、NPO、NGO等が作業ミーティング等様々な活動に利用する 木工、草木染、干物づくり等東紀州地域特有の体験活動	
共有スペース	入口・通路・倉庫・便所等	

センター周辺機能

用途	具体的内容	摘要
駐車場スペース	乗用車・バス・タクシー・自転車等	安全性・環境配慮
憩いの森ゾーン	多目的広場(朝市、野外体験教室、イベント等)、休憩スペース W.C(男大3、小6 女大8、多目的W.C男1、女1)	
地域振興ゾーン	地域振興施設として民間等主導にて将来計画予定	約2,000㎡の空きスペースのみ確保